

資料A: CEFR

覚えておくべき事項

1. 複言語主義
2. 行動主義的言語観
3. 「コミュニケーション言語能力」を構成するもの (言語構成能力・社会言語能力・言語運用能力)

Council of Europe. (2001) *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press. (available at [http://www.coe.int/t/dg4/linguistic/source/framework\\_en.pdf](http://www.coe.int/t/dg4/linguistic/source/framework_en.pdf))

吉島茂、大橋理枝(訳・編) (2004) 『外国語教育II—外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠—』. 東京: 朝日出版社. (<http://www.dokkyo.net/daf-kurs/library.html>でも入手可)

表1 共通参照レベル：全体的な尺度

熟達した言語使用者	C2	聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構成できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長いテキストを理解することができ、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会的、学問的、職業上の目的に応じた、柔軟な、しかも効果的な言葉遣いができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細なテキストを作ることができる。その際テキストを構成する字句や接続表現、結束表現の用法をマスターしていることがうかがえる。
自立した言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができ、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
	B1	仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈絡のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。
基礎段階の言語使用者	A2	ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

表2 共通参照レベル：自己評価表

	A1	A2	B1
理解する	はっきりとゆつくりと話してもらえれば、自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。	(ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、近所、仕事などの) 直接自分に関連した領域で最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。短い、はっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。	仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。話し方が比較的ゆつくり、はっきりとしているなら、時事問題や、個人的もしくは仕事上の話題についても、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。
	例えば、掲示やポスター、カタログの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。	ごく短い簡単なテキストなら理解できる。広告や内容紹介のパンフレット、メニュー、予定表のようなものの中から日常の単純な具体的に予測がつく情報を取り出せる。簡単に短い個人的な手紙は理解できる。	非常によく使われる日常言語や、自分の仕事関連の言葉で書かれたテキストなら理解できる。起こったこと、感情、希望が表現されている私信を理解できる。
読む	相手がゆつくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け船を出してくれるなら、簡単なやり取りをすることができる。直接必要なことやごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。	単純な日常の仕事の中で、情報の直接のやり取りが必要ならば、身近な話題や活動について話し合いができる。通常は会話を続けていくだけの理解力はないのだが、短い社交的なやり取りをすることはできる。	当該言語圏の旅行中に最も起こりやすい話したい状況に対処することができる。例えば、家族や趣味、仕事、旅行、最近の出来事など、日常生活に直接関係のあることや個人的な関心事について、準備なしで会話に入ることができる。
	どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。	家族、周囲の人々、居住条件、学歴、職歴を簡単な言葉で一連の語句や文を使って説明できる。	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、野心を語るすることができる。意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。物語を語ったり、本や映画のあらすじを話し、またそれに対する感想・考えを表現できる。
話す	新年の挨拶など短い簡単な葉書を書くことができる。例えばホテルの宿帳に名前、国籍や住所といった個人のデータを書き込むことができる。	直接必要のある領域での事柄なら簡単に短いメモやメッセージを書くことができる。短い個人的な手紙なら書くことができる。例えば礼状など。	身近で個人的に関心のある話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。私信で経験や印象を書くことができる。

B2	C1	C2
長い会話や講義を理解することができる。また、もし話題がある程度身近な範囲であれば、議論の流れが複雑であっても理解できる。たいいていテレビのニュースや時事問題の番組も分かる。標準語の映画なら、大部分は理解できる。	たとえ構成がはっきりしなくて、関係性が暗示されているにすぎず、明示的でない場合でも、長い話が理解できる。特別の努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。	生であれ、放送されたものであれ、母語話者の速いスピードで話されても、その話し方の癖に慣れる時間の余裕があれば、どんな種類の話し言葉も、難無く理解できる。
筆者の姿勢や視点が出ている現代の新聞や雑誌の記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。	長い複雑な事実に基づくテキストや文学テキストを、文体の違いを認識しながら理解できる。自分の関連外分野での専門的記事も長い、技術的説明書も理解できる。	抽象的で、構造的にも言語的にも複雑な、例えばマニュアルや専門的記事、文学作品のテキストなど、事実上あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。
流暢に自然に会話をする事ができる。母語話者と普通にやり取りができる。身近なコンテキストの議論に積極的に参加し、自分の意見を説明し、弁明できる。	言葉をことさら探さずに流暢に自然に自己表現ができる。社会上、仕事上の目的に合った言葉遣いが、意のままに効果的にできる。自分の考えや意見を正確に表現でき、自分の発言を上手に他の話し手の発言にあわせることができる。	慣用表現、口語体表現をよく知っていて、いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。自分を流暢に表現し、詳細に細かい意味のニュアンスを伝えることができる。表現上の困難に出合っても、周りの人がそれにほとんど気がつかないほどに修正し、うまく繕うことができる。
自分の興味関心のある分野に関連する限り、幅広い話題について、明瞭で詳細な説明をすることができる。時事問題について、いろいろな可能性の長所、短所を示して自己の見方を説明できる。	複雑な話題を、派生的問題にも立ち入って、詳しく論ずることができ、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。	状況にあった文体で、はっきりとすらすらと流暢に記述や論述ができる。効果的な論理構成によって聞き手に重要点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。
興味関心のある分野内なら、幅広くいろいろな話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。エッセイやレポートで情報を伝え、一定の視点に対する支持や反対の理由を書くことができる。手紙の中で、事件や体験について自分にとっての意義を中心に書くことができる。	適当な長さでいくつかの視点を示して、明瞭な構成で自己表現ができる。自分が重要だと思う点を強調しながら、手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。読者を念頭に置いて適切な文体を選択できる。	明瞭な、流暢な文章を適切な文体で書くことができる。効果的な論理構造で事情を説明し、その重要点を読み手に気づかせ、記憶にとどめさせるように、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。仕事や文学作品の概要や評を書くことができる。

## 資料B: NS

## 覚えておくべき事項

1. 学校教育の一環としての外国語教育、人間形成を助けるための外国語教育
2. 5C(Communication, Cultures, Connections, Comparisons, Communities)

National Standards in Foreign Language Education Project (eds.) (1999) *Standards for Foreign Language Learning in the 21st Century*. Yonkers, N.Y. : National Standards in Foreign Language Education Project.

〈日本語訳はここから〉

『21世紀の外国語学習スタンダードズ「外国語学習スタンダードズ」』 [https://www.jpfe.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/syllabus/pdf/sy\\_honyaku\\_9-1usa.pdf](https://www.jpfe.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/syllabus/pdf/sy_honyaku_9-1usa.pdf)

以下に述べられているのは、本外国語学習スタンダードズ作成にあたり掲げられた3つの主要な基本原理、すなわち、「広範な言語教育の目標」、「スタンダードズ到達に必要なカリキュラム要素」、及び本書の構成上骨子となる「コミュニケーション形態の枠組」である。

## 外国語教育の目標領域 (5つのC)

学習者が一人ひとり異なるのと同様に、外国語を使用したり、学習したりする目的は多様である。国際的なビジネスや政府関係の仕事に活躍できる場を求めて英語以外の言語を学習している者もいれば、言語学習に知的刺激を求める者やそれを自己の認知力を高める手段としている者もいる。また、異なる民族や文化へ対する理解を深めることを目的としている者もいる。しかし、学習者の大半の目的は、他の教科と同様に、単に卒業単位を満たすためというのが現実である。そうした中で、学習者は学習の目的が何であれ、外国語を学習することにより何らかの恩恵を受けていることも事実である。そこで、スタンダードズ実行委員会は、このような学習者の目的の多様性と外国語学習のもたらす利益を念頭に置き、5つの目標領域、「コミュニケーション (Communication)」、「文化 (Cultures)」、「コネクション (Connections)」、「比較 (Comparisons)」、「コミュニティ (Communities)」を打ち出したのである。

英語以外の言語を通じてのコミュニケーション、つまり、相手と向き合って話したり、文書を書いたり、何世紀もの時を超えた文学を読んだり、コミュニケーションの形は様々であっても、コミュニケーションが第二言語学習の中心であることには間違いない。他の言語を学習することによって、言語と密接に関係のある文化を理解できるようになると言われているが、人々が言葉を使用する裏にある文化的背景を完全に理解できるようになって初めて、本当にその言語をマスターしたと言える。また、言語学習によるメリットは、母語しか話さない者には得られないような方面の知識が得られるということでもある。さらに、学習言語と母語を比較することにより、自己の言語と文化に対しての洞察力を深めると同時に、世の中を多様な視点から見られるようになる。このような事柄を包括的に習得することによって、学習者は様々な状況において文化的に適切な方法で、自分の身の回りや世界中にある多言語コミュニティへ参加できるようになると考えられる。このような5つの目標はそれぞれ密接な関係にあり、切り離すことができない。次頁の図4はそれらがどのような相互関係にあるかを示すと同時に、我々が日頃使う言語がいかに豊かであるかをも物語っている。

言語学習をより高い次元から見ると、すべての学習者が外国語教育により恩恵が得られるということが明らかになる。それぞれ授業内容の教育的、職業的目標は異なっても、5つの目標領域をすべてカバーするような外国語教育を目指すならば、学習者の誰もが言語教育によって恩恵を受けると思われる。卒業後は、学習した言語を話す機会がない学習者であっても、その後の人生において、身につけた異文化スキル (crosscultural skills) や知識、洞察力を維持することによって、伝統的な国境という概念を超えて世界中の人々との交流が可能となるはずである。

資料C: 「めやす」(1)

覚えておくべき事項(1)

1. 総合的コミュニケーション能力 2. 「3×3+3」のキーコンセプト

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	<p><b>A. 自他の言語がわかる</b></p> <p>A-1. 学習対象言語の文字・音声・語彙・表現（文法・語法）について知り、その仕組みを理解する。</p> <p>A-2. 学習対象言語について新たな発見をしたり、母語と比較してその違いに気づいたりする。</p>	<p><b>D. 自他の文化がわかる</b></p> <p>D-1. 学習対象文化に関して表象するさまざまな文化事象（事物や行動）について知り理解する。</p> <p>D-2. 学習対象の文化事象を観察して新たな発見をしたり、自文化や自分が知っている文化と比較して、その違いや関係性に気づいたり、推測したりする。</p>	<p><b>G. グローバル社会の特徴や課題がわかる</b></p> <p>G-1. グローバル社会（自分—学校—身近な地域社会—日本社会—広域地域社会—世界が緊密につながる21世紀の多言語多文化社会）の一員としての自覚をもち、グローバル社会の特徴や直面する課題について理解する。</p> <p>G-2. グローバル社会に生きるために、21世紀スキルを身につけることが必要であることを理解する。</p>
できる	<p><b>B. 学習対象言語を運用できる</b></p> <p>B-1. 学習対象言語を使って、身近な事柄や関心のある事柄について、自分の気持ちや考え、情報を伝えたり、相手の気持ちや考え、情報を理解したり、相手とやりとりをして運用することができる。</p> <p>B-2. 学習対象言語と母語を比較して、その共通性や相違性、関係性を探究して分析することができる。</p> <p>B-3. 言語的能力のギャップを埋めて、コミュニケーションを成立させるために、さまざまな言語および非言語ストラテジーを使うことができる。</p>	<p><b>E. 多様な文化を運用できる</b></p> <p>E-1. 学習対象文化と自文化をはじめ、多様な文化事象を比較して、知識情報を活用しながら、共通性や相違性を分析することができる。</p> <p>E-2. 文化事象間の共通性や相違性の事由および文化事象の背景にある考え方や価値などについて探究して調べ、自分なりの考えをまとめて表明することができる。</p> <p>E-3. 文化事象を分析することをとおして、文化の多様性や可変性といった文化をみる視点を身につけ、自文化を再認識したり、他の文化事象についてそれを適用したりすることができる。</p> <p>E-4. 自他の文化をはじめ、異文化間の相違性から生じる誤解や摩擦、緊張関係を調整したり、妥協点を探ったりして、協力して問題を解決することができる。</p>	<p><b>H. 21世紀スキルを運用できる</b></p> <p>H-1. さまざまな文化的背景をもつグループの一員として、メンバーと意見を交換したり、グループ全体の目標を達成するために、自分の役割を責任をもって果たすことができる。（協働）</p> <p>H-2. 問題を解決するために、資料、状況を客観的に解釈・分析・吟味して判断し、自らの考えを根拠に基づいて表明することができる。（高度思考）</p> <p>H-3. 情報を収集・編集・発信する際に、情報・メディア・テクノロジー(ICT)の特性を活かして、相互作用的に活用することができる。（情報活用）</p>
つながる	<p><b>C. 学習対象言語を使って他者とつながる</b></p> <p>C-1. 学習対象言語や母語を使って、主体的かつ積極的に他者と対話をして、相互作用しながら共に関係をつくり上げていくことができる。</p>	<p><b>F. 多様な文化的背景をもつ人とつながる</b></p> <p>F-1. 多様な文化的背景をもつ人びとと主体的かつ積極的に関わり、相互に作用しながら、軋轢や摩擦を乗り越えてつきあうことができる。</p>	<p><b>I. グローバル社会とつながる</b></p> <p>I-1. 人・モノ・情報にアクセスして、自分とつながりのあるグローバル社会のネットワークに関わり、ネットワーク全体の目標達成やグローバル社会づくりのために、自分の能力、知識、時間などを提供したり、メンバーと助けあい協力して行動することができる。</p>
三連繋	<p><b>連繋1: 関心・意欲・態度/学習スタイルとつながる</b></p> <p><b>連繋2: 既習内容・経験/他教科の内容とつながる</b></p> <p><b>連繋3: 教室外の人・モノ・情報とつながる</b></p>		

## 資料D: 21世紀型スキル

ATC21S (The Assessment and Teaching of 21st-Century Skills) ☞<http://atc21s.org>

### 覚えておくべき事項

- ・ 21世紀に生きていく子どもたちに必要な一般的能力
- ・ グローバル社会を生き抜くために必要とされる能力

### I 思考の方法 (Ways of Thinking)

1. 創造力とイノベーション / Creativity and innovation
2. 批判的思考、問題解決、意思決定 / Critical thinking, Problem solving, Decision making
3. 学びの学習、メタ認知 (認知プロセスに関する知識) / learning to learn, metacognition

### II 仕事の方法 (Ways of Working)

4. コミュニケーション / Communication
5. コラボレーション (チームワーク) Collaboration (teamwork)

### III 仕事のツール (Tools for Working)

6. 情報リテラシー / Information literacy
7. 情報通信技術ICTに関するリテラシー / ICT literacy

### IV 社会生活 (Skills for Living in the World)

8. 地域と国際社会での市民性 / Citizenship — local and global
9. 人生とキャリア設計 / life and career
10. 個人と社会における責任 (文化に関する認識と対応) / Personal and social responsibility including cultural awareness and competence

(日本語の訳語は<http://connect.ed.shizuoka.ac.jp/masukawa/index.php?ATC21>による)

## 『めやす』の主張？

CEFR的観点: ◆コミュニケーションの目的→人が社会で直面するあらゆる課題を解決するため◆コミュニケーション能力→人が社会で直面するあらゆる課題を解決するために情報をやりとりする能力

めやす的観点: コミュニケーションの目的→人的ネットワークの構築

であるなら……

- ・ 人が社会で生きていくために必要なあらゆる知識やスキルや態度を外国語教育の中で身につけさせるべきだ

## 資料E: 「めやす」(2)

### 覚えておくべき事項(2)

1. 15の話題領域
2. レベル1～レベル4のコミュニケーション能力指標

### 15の話題領域

1. 自分と身近な人々：自分に関する話題、友達や家族など身近な人、ペットの話題等
2. 学校生活：自分が所属する学校のように学校での生活に関する話題
3. 日常生活：学校の時間以外のふだんの生活に関する話題
4. 食：食べ物の好き嫌いや食事の習慣など、食生活に関する話題
5. 衣とファッション：服やアクセサリ、化粧などに関する話題
6. 住まい：家に関する話題
7. からだと健康：からだの部位や特徴、健康などに関する話題
8. 趣味と遊び：放課後や休日、アルバイト、趣味などに関する話題
9. 買い物：実際の買い物場面、買物行動に関する話題
10. 交通と旅行：町のようすや通学などに利用する交通機関に関する話題
11. 人とのつきあい：日常のあいさつなど
12. 行事：年中行事や個人・家族に関する記念日などの話題
13. 地域社会と世界：地理・歴史・時事問題などに関する知識についての話題
14. 自然環境：四季や天気に関する簡単なあいさつ、気候に関する話題
15. ことば：母語と外国語に関する話題、簡単なあいさつを含む

### コミュニケーション能力指標 (レベル1の例、レベルは1から4まで)

- ・名前(姓名)や属性(高校生であること、学年、年齢、誕生日など)を言ったり、尋ねたりできる。【自分と身近な人びと】
- ・自分が学習している科目名や学校の施設名を、書いて伝えることができる。【学校生活】
- ・普段持ち歩いているものや身につけているものについて、会話できる。【日常生活】
- ・自分の好きな食べ物、嫌いな食べ物、食べられないものなど、料理名や食品名を、口頭で伝えることができる。【食】
- ・服の好み(よく着る服、好きな色など)や髪型の好み(ロング、ショートなど)について、言ったり尋ねたりできる。【衣とファッション】
- ・各部屋(台所、トイレ、寝室、居間など)の名称を、言ったり、聞いて理解したりできる。【住まい】
- ・からだの調子(疲れているか、気分が悪いかなど)について、言ったり尋ねたりできる。【からだと健康】
- ・お店の開店・閉店時間を、尋ねることができる。【買い物】
- ・自分の行きたい場所を、口頭でまたは書いて伝えることができる。【交通と旅行】

- ・自分や交流相手の住所や宛名を書いたり、書かれた住所や宛名を見て理解したりできる。【人とのつきあい】
- ・行事(年中行事、祝祭日、記念日、通過儀礼など)の名称・月日を、言ったり尋ねたりできる。【行事】
- ・自分の住んでいる町や都市の、有名な場所や食べ物などを、言うことができる。【地域社会と世界】
- ・天気についてよく言う簡単な言い回し(今日は暑い、暖かい、寒い、涼しいなど)を使って、あいさつを交わすことができる。【自然環境】
- ・自分の話す学んでいる言語についての相手の評価を、聞いて理解できる。【ことば】

### 言語能力指標

#### レベル1

- ・自分が想定している範囲で、基本的な言い回しを使って、相手の協力を得られれば簡単なやりとりができる。(対人)
- ・自分にとって身近な事柄について、短い語句や文で表現することができる。(提示)
- ・よく耳にしたり目にしたりする語句や文のうち、ごく基本的なものを理解することができる。(解釈)

#### レベル2

- ・自分が想定している範囲で、学んだ語句や文から選択して、相手の協力を得られればやり取りができる。(対人)
- ・自分にとって身近な事柄を、短い語句や文を並べて表現することができる。(提示)
- ・よく耳にしたり目にしたりする語句や文を理解することができる。(解釈)

#### レベル3

- ・自分が想定していない状況においても、学んだ語句や文を使って、相手の協力を得られれば、ある程度創造的なやりとりができる。(対人)
- ・自分の身の周りや関心のある事柄について、ある程度まとまった内容を、趣旨が通じる程度に表現することができる。(提示)
- ・ある程度まとまった内容を、辞書の助けを借りたり、事前に関連情報を得たりして、理解することができる。(解釈)

#### レベル4

- ・自分が想定していない状況においても、ある程度創造的なやりとりができる。(対人)
- ・より正確で適切な語句や文を使って表現することができる。(提示)
- ・ある程度まとまった内容を理解することができる。(解釈)

資料F: 「めやす」の特徴～教授法・授業設計への提案

- プロジェクト型学習
- 主題中心単元 Thematic Unit
- 3×3+3を学習要素に (例: 文化を使う、高度な思考、21世紀型スキル、他との連繋……)
- 学習者の行動で学習目標を語る
- 成果物を作りあげることこだわる Product Based Approach
- 逆向き設計 Backward Design
- 多様な評価法 (ルーブリックによるパフォーマンス評価、ポートフォリオによる評価……)

〈実例〉

「めやす」マスター研修の「学習プロジェクト」設計手順

- |  |  |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習プロジェクトのテーマを決める</li> <li>2. 最終的に到達すべき目標を「学習者の行動として」記述する</li> <li>3. 達成すべきコミュニケーション能力指標を決める</li> <li>4. 総括的評価のための活動を考える</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 総括的評価のための活動を評価するルーブリックを策定する</li> <li>6. 学習シナリオを書く</li> <li>7. 3×3+3の表で学習要素のチェック</li> <li>8. ゴールのブレイクダウン (最終目標&gt;より小さな目標&gt;個々のタスク)</li> </ol> |
|--|--|

	タスク (日々の活動の中ですること)	小目標 (日々の授業の活動のゴール)	中目標 (プロジェクト全体の里程碑になるように 配置されたゴール)	大目標 (プロジェクト全体のゴール)
言語 表現	日々の授業で与えられる個々の プレコミュニケーション活動。	個々の個別的な言語表現の伝達 機能に焦点を当て、それが運用 できるかどうかを示す目標。	明確な構造を持つ談話、社会的な役割を担 って行われる談話など、個別的な言語表現 を統合した高次の言語表現を運用できるか どうかを示す目標。	プロジェクト全体の目標。教室 外の社会との連携や、新しい人 的ネットワークの構築に、積極 的に関わる目標が望ましい。
言語 表現 以外	日々の授業で行う段階を追った 活動。	中目標の成果物を作り上げるた めにクリアしなければならない 知識の獲得、調査、分析、報 告、制作活動の目標。	あるジャンルのメッセージを伝える成果物 を残すことが可能な目標。例: 何かの違い を分析したレポート、何かを紹介するパフ ォーマンス、歓迎の気持ちを表現するカー ドや飾り付け……	

個々のタスク	小目標	中目標	大目標	テーマ		
既存の調査の有無を調べる。それが使えるかどうかを検討する。	日本の高校生が日課としてしていることを調べ、「典型」的なパターンを幾つか設定する。	日本の高校生の典型的な日常生活を、幾つかのパターンで描き出す。	日本の高校生の典型的な日常生活を、中国の高校生に、それぞれの社会や文化の違いに配慮しつつ、いろいろな手段を利用して中国語で伝えられるようにする。	【テーマ】 日本と中国の高校生の日常生活のちがいを探る。		
どのような人を対象に、何人に調査するか、どのような調査方法を採用するかを話し合っ						
調査した結果を持ち寄って分析し、典型例を設定する。						
上に同じ。	日本の高校生が余暇にしていることを調べ、「典型」的なパターンを幾つか設定する。					
【形成的評価】 「日課」と「余暇」のそれぞれについて想定した数種類の典型をレポート（日本語で書く）にして提出させる→ここで決めた「典型」は以下の語彙と文型を選択の参考に						
ここで、学習者にどのようなタスクを与えていくかは、言語によって異なるかもしれない。語彙の導入～文型の導入～プレコミュニケーション活動などのタスクを活動順に記述する。	曜日と言える。	ある時点（○曜日の午前/午後○時）を表現できるようにする。				
【形成的評価】 いろいろな時点を提示し、それを目標言語で表現できるか、ペーパーテストで確認する。	時刻と言える。					
	午前・午後などの区分が言える。					
ここで、学習者にどのようなタスクを与えていくかは、言語によって異なるかもしれない。語彙の導入～文型の導入～プレコミュニケーション活動などのタスクを活動順に記述する。	一般的なルーティンワークを言える。	日課として行っている行為や習慣的な行為（例：イヌと公園でダンスをする）を表現できるようにする。				
【形成的評価】 上の時点の表現と組み合わせて、日課や習慣を表現するのに必要な表現が組み立てられるかどうか、ペーパーテストで確認する。	どこでするかなどを言える。					
	誰とするかなどを言える。					
ここで、学習者にどのようなタスクを与えていくかは、言語によって異なるかもしれない。語彙の導入～文型の導入～プレコミュニケーション活動などのタスクを活動順に記述する。	どの時点でするかを言える。	既習の言語表現を有効に活用し、また、不足する知識は自分たち（学習者仲間）で補い、日課などに関して「自分自身のこと」を語れるようにする。				
【形成的評価】 上の時点の表現と組み合わせて、日課や習慣を表現するのに必要な表現が組み立てられるかどうか、ペーパーテストで確認する。	自分の表現したいことに必要な言語項目で、まだ自分が使えない項目を認識することができる。					
	【形成的評価】 「足りないリスト」を提出させる。→「言い換え、回避、代替手段の利用」などのストラテジーをフィードバックする。					
グループ内で「足りないリスト」を持ち寄り、教えあえるところは教えあう。	不足している知識を学習者だけで補い、その妥当性の検証を試みることができる。	既習の言語表現を有効に活用し、また、不足する知識は自分たち（学習者仲間）で補い、日課などに関して「自分自身のこと」を語れるようにする。				
1つの項目に対し、複数のリソースを調査し、結果を持ち寄り、妥当そうな表現を選択する。						
【形成的評価】 「特定の曜日に自分がすること」「自分の平均的な一週間の行動」などのうち、自分が発表をするときに使うスクリプトを提出させる。→誤りを訂正するフィードバック。						
【形成的評価】 「特定の曜日に自分が～」「自分の平均的な一週間～」などについて中国語で発表させ、録画。他の学習者にも「誰のプレゼンが聞き取りやすいか」を評価させる。→最後の活動での発表者（複数が望ましい）の選定に利用。						
ここで、学習者にどのようなタスクを与えていくかは、言語によって異なるかもしれない。語彙の導入～文型の導入～プレコミュニケーション活動などのタスクを活動順に記述する。	「週末」「夏休み」などを表現できる。	長期から短期まで余暇の種類を表現できるようにする。				
【形成的評価】 上の余暇の種類を表現するのに必要な表現が組み立てられるかどうか、ペーパーテストで確認する。	「時間があるとき、たまに、授業が終わってから」などの条件を表現できる。					
	一般的な余暇の活動を表現できるようにする。					
【形成的評価】 上の余暇の種類を表現するのに必要な表現が組み立てられるかどうか、ペーパーテストで確認する。	誰とするか、どこでするか、頻度などの条件をつけて余暇の活動を表現できる。	余暇にするさまざまな活動を表現できるようにする。				
上記の「……日課などに関して「自分自身のこと」を語れるようにする」の作業の繰り返し。						
【形成的評価】 「特定の曜日に自分がすること」「自分の平均的な一週間の行動」などのうち、自分が発表をするときに使うスクリプトを提出させる。→誤りを訂正するフィードバック。						
【形成的評価】 「自分が夏休みによく～」「自分が週末によく～」「自分が時間があるときよく～」などでテーマで中国語で発表させ、録画する。他の学習者にも評価させる。→最後の活動での発表者（複数が望ましい）の選定に利用。						
中国の高校生の典型的な1日/1週/余暇の過ごし方を調べて、日本のそれと対照する。	社会や文化に関する予備知識なしには理解しにくい、自分の住む地域の「日々の行動」「余暇の行動」を見つけだし、そのギャップを解決する方法を考え出せる。	相手が理解しやすい情報と理解しにくい情報（文化依存・社会依存などの理由で）を推測し、さまざまなストラテジー（身振り・手振り、言い換え）やリソース（マルチメディア資料）を駆使し、そのギャップを乗り越えることができるプレゼンテーションをすることができる。				
最初のレポートでまとめた「典型例」を中国語で表現することを試みる。						
留学生の助けも得て、特に説明が必要な項目を選び、それを説明するための方策を考える。						
【形成的評価】 「典型例」を中国語で説明するとスクリプトを書き、提出する。→誤りを訂正するフィードバック。						
最後のプレゼンのための分担を決める。	プレゼンテーションを完成させる。					
さまざまな補助的資料を集める。						
プレゼンテーションの練習をする。						
【形成的評価】 公開練習を行い、他の教員や、上のレベルの学習者、留学生に見てもらおう。→フィードバック。						
【総括的評価のための活動】 プレゼンテーションを撮影し、相手かたに送り、「自分たちを何が違うか」についてコメントをもらう。返ってきた反応に対する分析を含め、自分の活動を振り返ったレポートを書く。						

目標分解と形成的評価の配置

2015マスター研修/夏/第8セッション